

マンホール設置工

# 1号マンホール(接合タイプA)

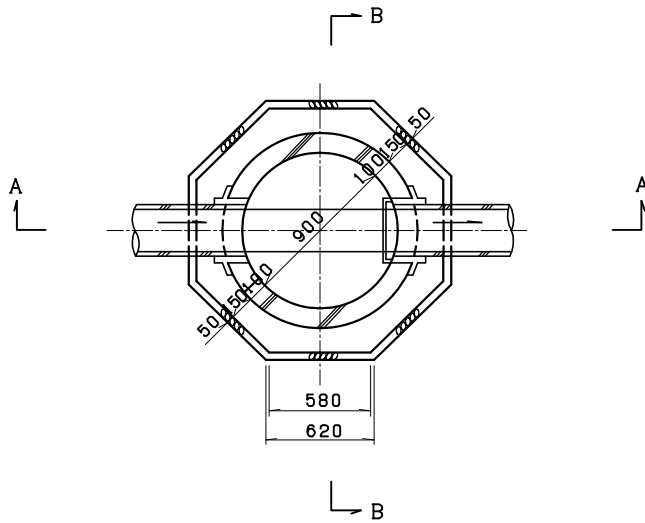
図面  
記号



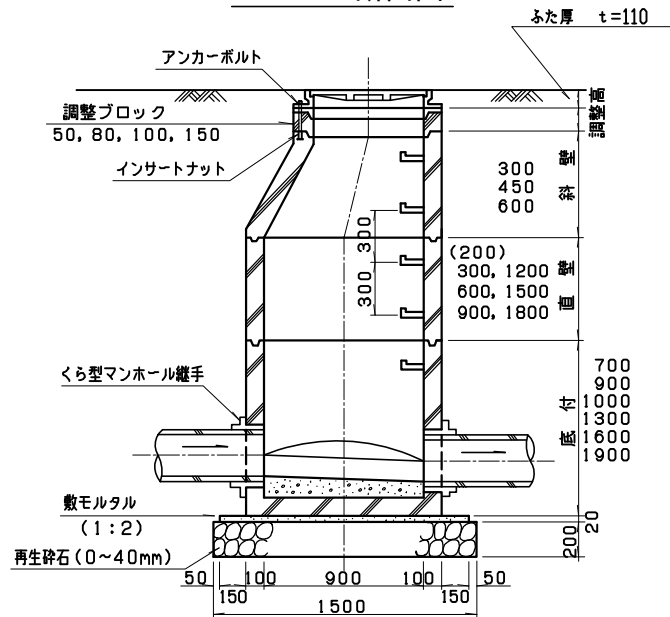
内径900mm円形 (単位mm)

図は、V型の場合を示す。

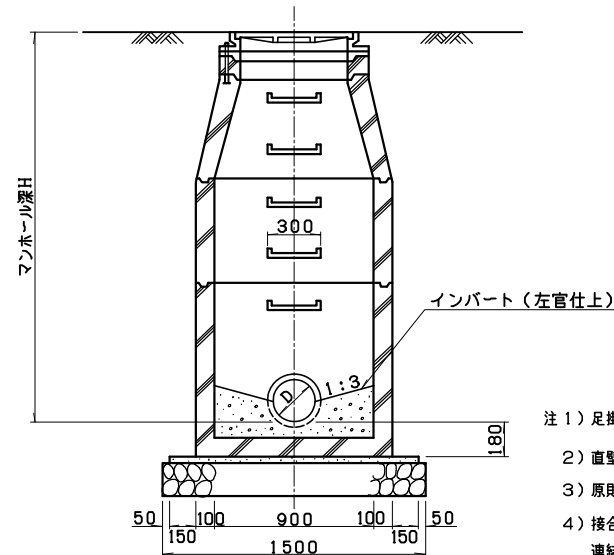
平面図



A-A 断面図

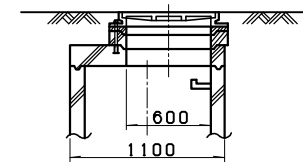


B-B 断面図

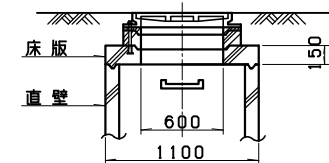


床版ブロック使用の場合

A-A 断面図



B-B 断面図



注1) 足掛金物の設置場所は、マンホール下流側を原則とする。

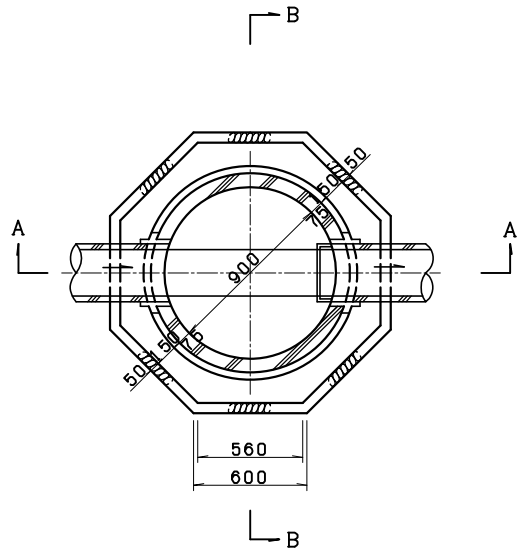
2) 直壁ブロックH=20cmは、マンホール新設時には使用しないこと。

3) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。

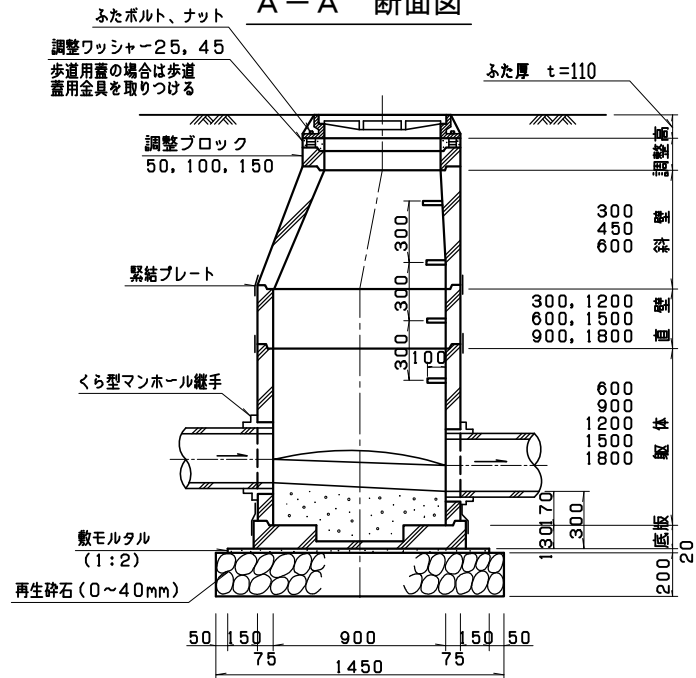
4) 接合タイプAとは、接合部上面に溝部を有し、樹脂系シール材により連結する接合構造(JSWAS A-11)

最大適用径 φ600

平面図



A-A 断面図



1号マンホール (接合タイプB, C)

図面記号



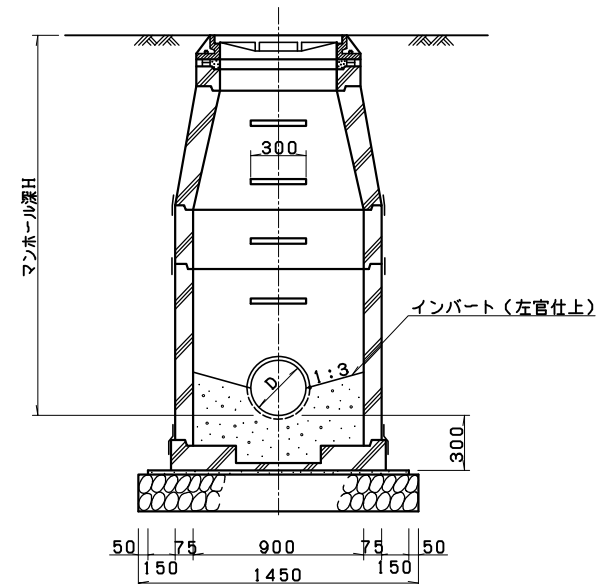
内径900mm円形 (単位mm)

図は、U型の場合を示す。

- 注 1) 足掛金物の設置場所は、マンホール下流側を原則とする。
- 2) マンホール深が、5.00m以上となる部分については深型ブロックを使用のこと。
- 3) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 4) 接合タイプBとは、金属プレートにより部材間が連結している接合構造 (JSWAS A-11)
- 5) 接合タイプCとは、接合部に金属製ボックスが埋設され、部材間をボルトで連結する接合構造 (JSWAS A-11)

最大適用径 φ500

B-B 断面図



## 2号マンホール(接合タイプA)

図面  
記号



内径1200mm円形

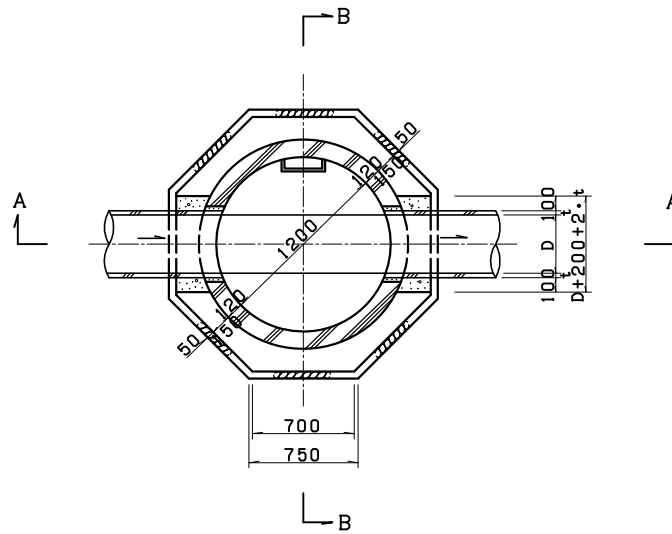
(単位mm)

図は、V型の場合を示す。

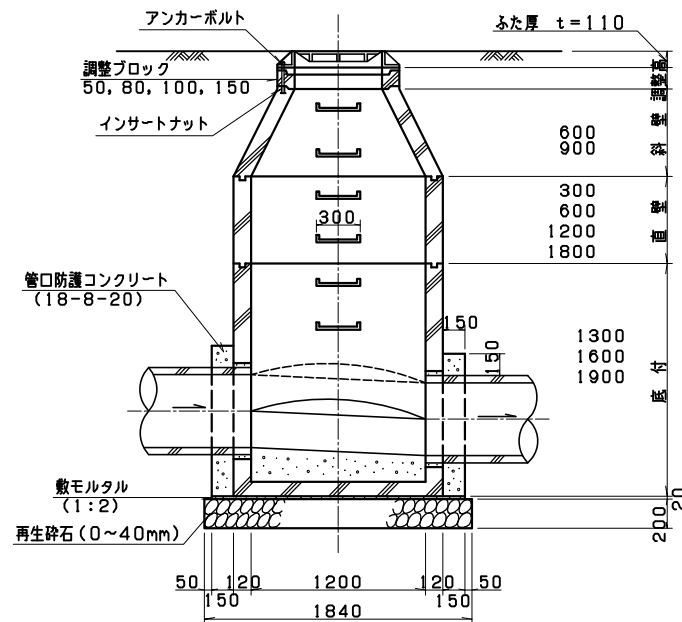
- 注 1) 損失水頭を減少させるため、インバート高を高くする場合がある。(設計書明示)
- 2) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 3) 接合タイプAとは、接合部上面に溝部を有し、樹脂系シール材により連結する接合構造 (JSWAS A-11)

最大適用径  $\phi 900$

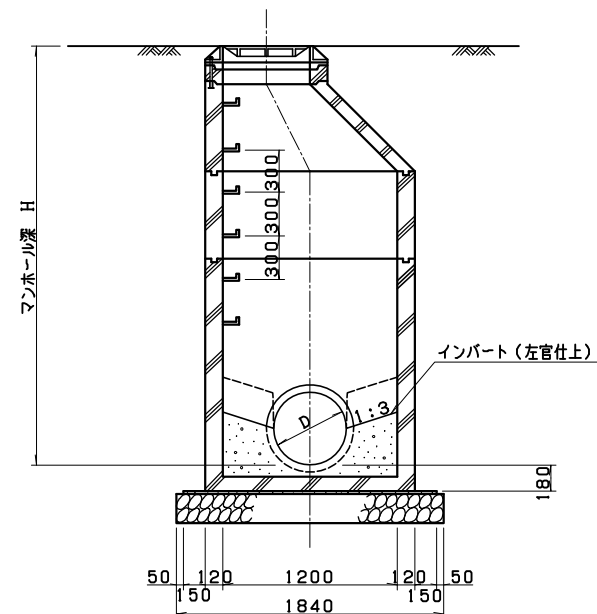
平面図



A-A 断面図



B-B 断面図



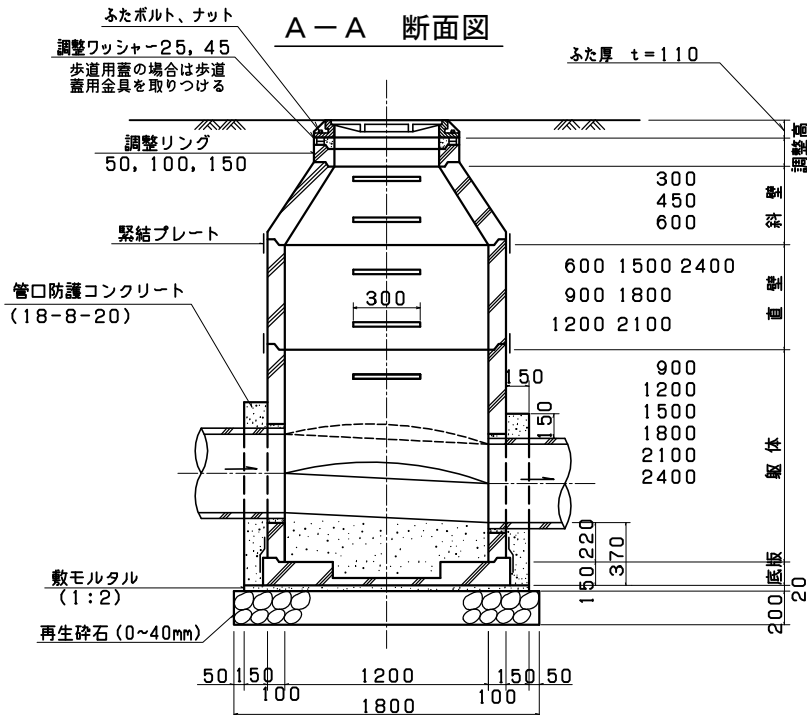
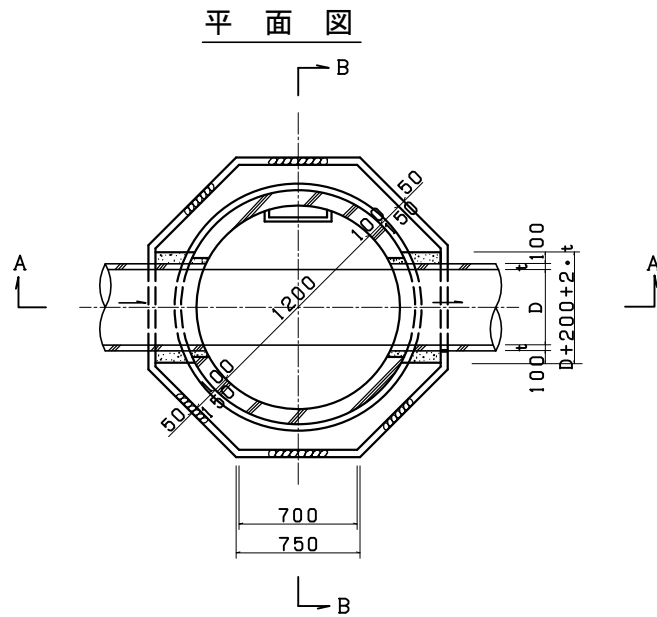
## 2号マンホール(接合タイプB, C)

図面  
記号

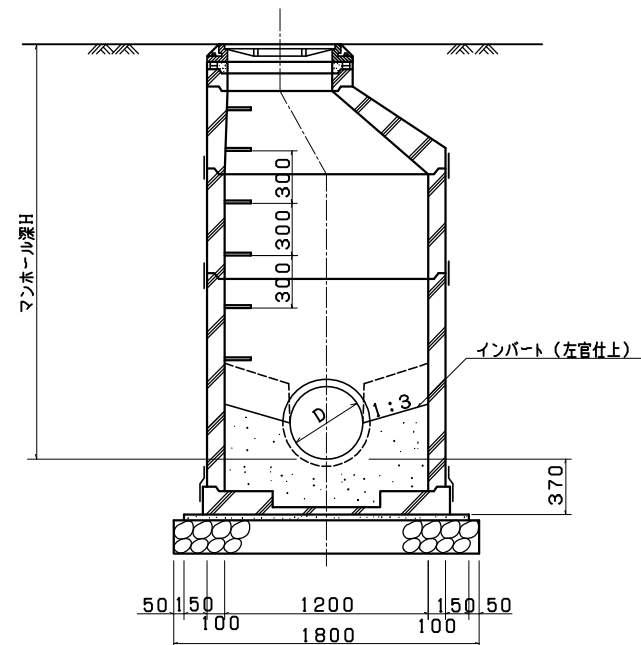


内径1200mm円形 (単位mm)

図は、U型の場合を示す。



### B-B断面図



- 注 1) 損失水頭を減少させるため、インバート高を高くする場合があります。(設計書明示)
- 2) マンホール深が5.00m以上となる部分については深型ブロックを使用の事。
- 3) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 4) 接合タイプBとは、金属プレートにより部材間が連結している接合構造 (JSWAS A-11)
- 5) 接合タイプCとは、接合部に金属製ボックスが埋設され、部材間をボルトで連結する接合構造 (JSWAS A-11)

最大適用径  $\phi 800$

### 3号マンホール(接合タイプB, C)

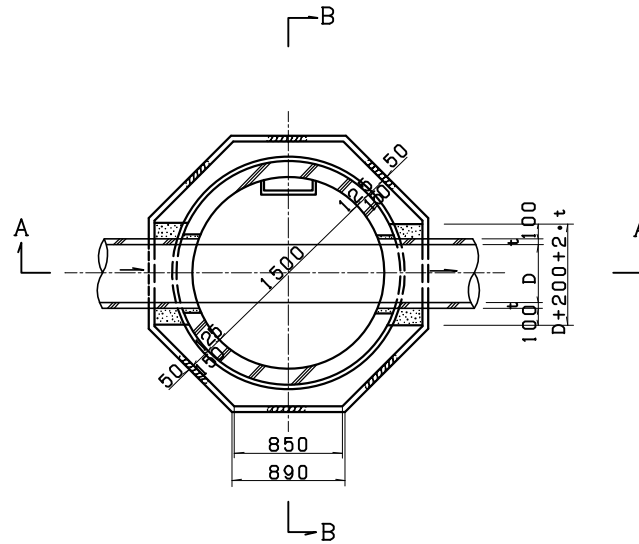
図面  
記号



内径1500mm円形 (単位mm)

図は、U型の場合を示す。

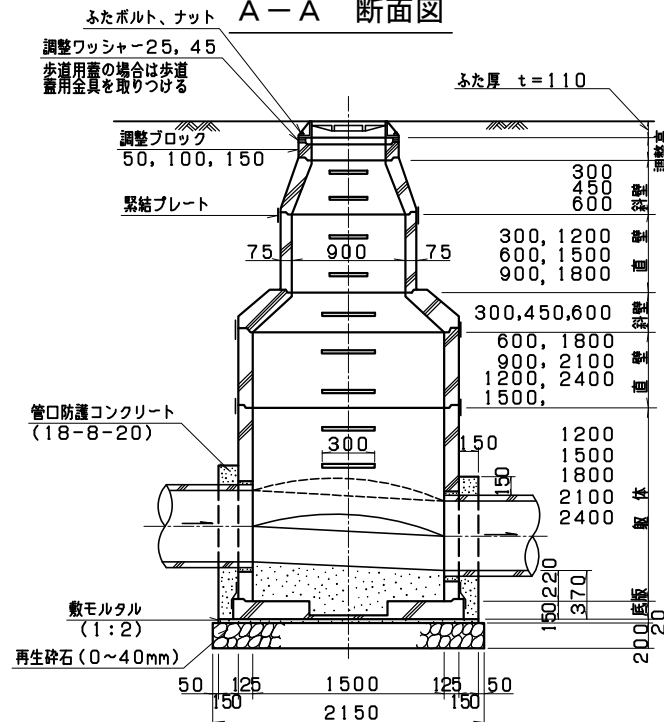
### 平面図



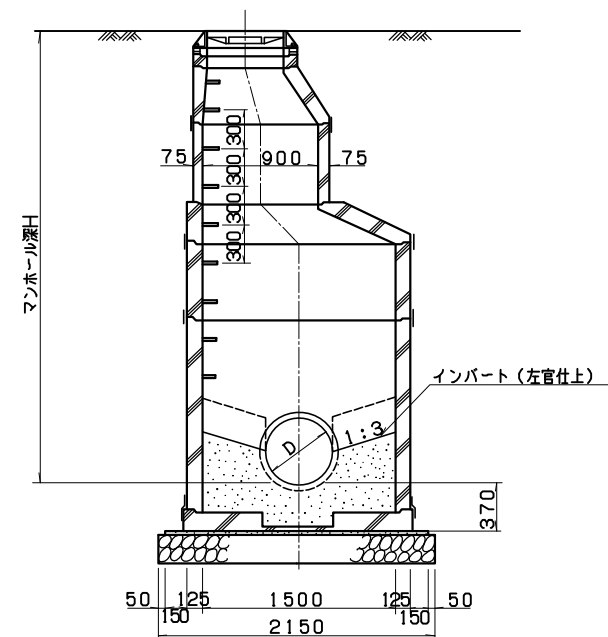
- 注 1) 損失水頭を減少させるため、インバート高を高くする場合がある。(設計書明示)
- 2) マンホール深が5.00m以上となる部分については深型ブロックを使用の事。
- 3) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 4) 接合タイプBとは、金属プレートにより部材間が連結している接合構造 (JSWAS A-11)
- 5) 接合タイプCとは、接合部に金属製ボックスが埋設され、部材間をボルトで連結する接合構造 (JSWAS A-11)

最大適用径  $\phi 1100$

### A-A 断面図



### B-B 断面図



# 4号マンホール (接合タイプB, C)

図面  
記号

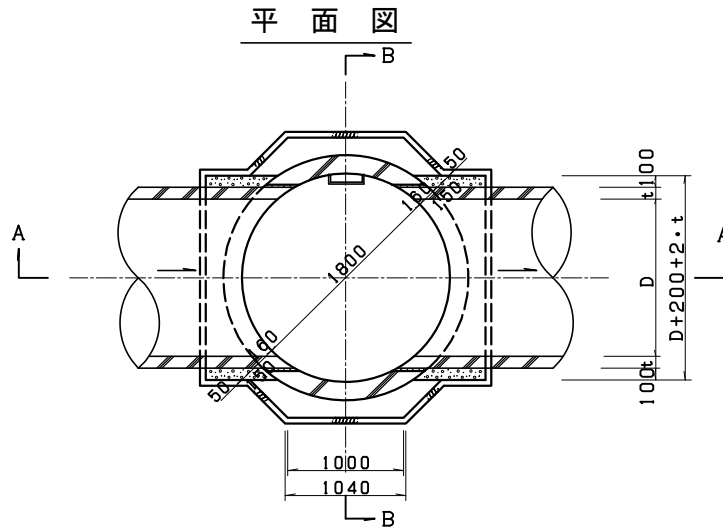


内径1800mm円形 (単位mm)

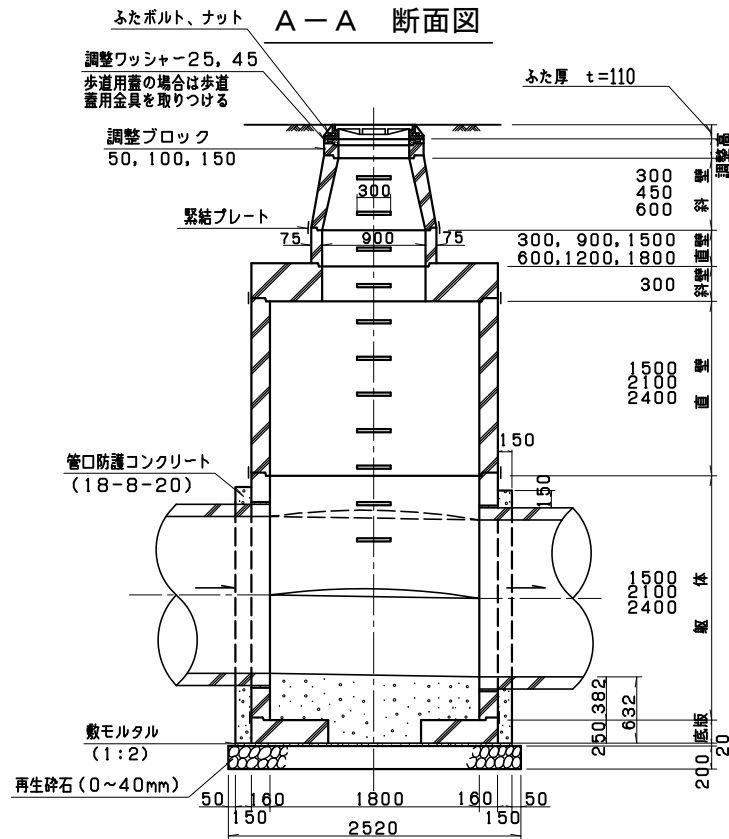
図は、U型の場合を示す。

- 注 1) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 2) 接合タイプBとは、金属プレートにより部材間が連結している接合構造 (JSWAS A-11)
- 3) 接合タイプCとは、接合部に金属製ボックスが埋設され、部材間をボルトで連結する接合構造 (JSWAS A-11)

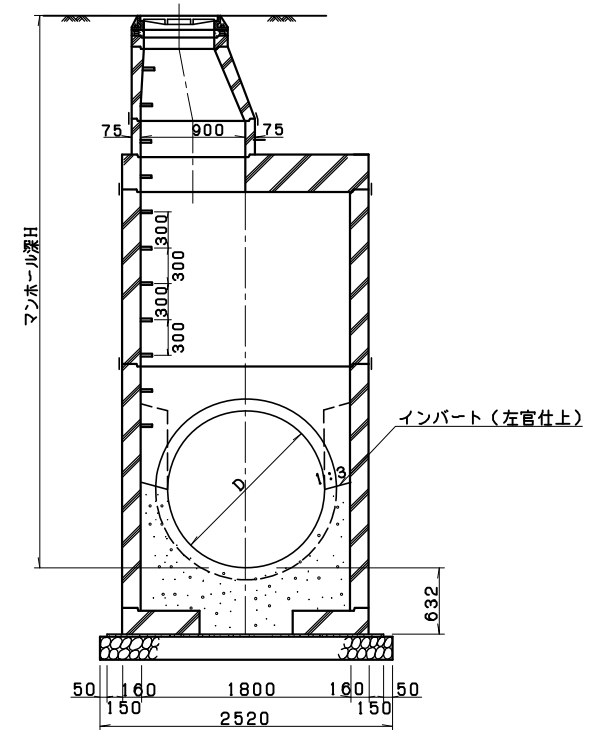
最大適用径 φ1200



A-A 断面図



B-B 断面図



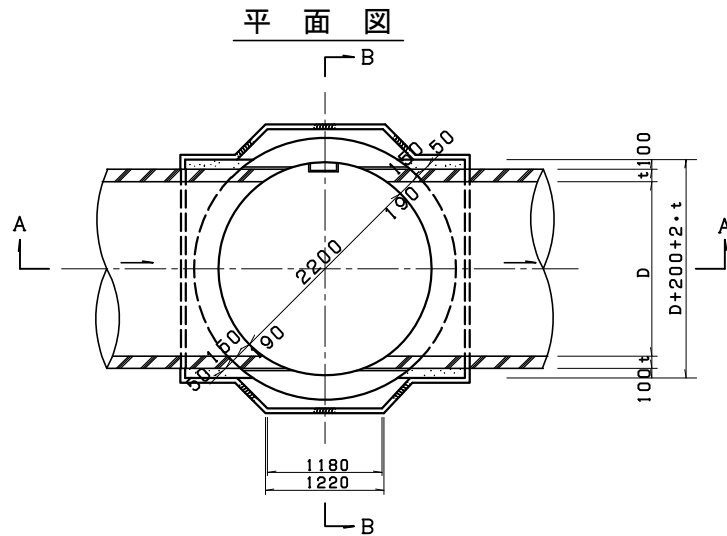
# 5号マンホール (接合タイプB, C)

図面  
記号



内径 2200mm 円形 (単位mm)

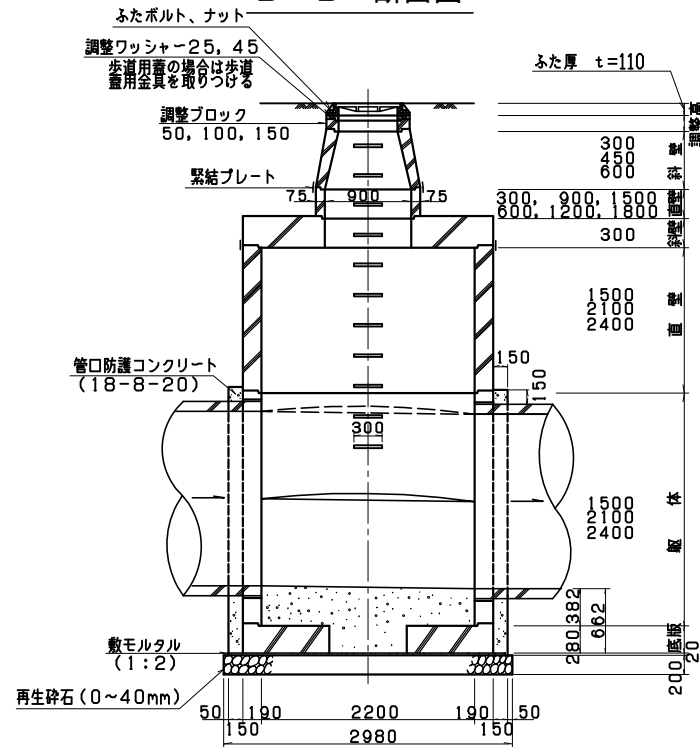
図は、U型の場合を示す。



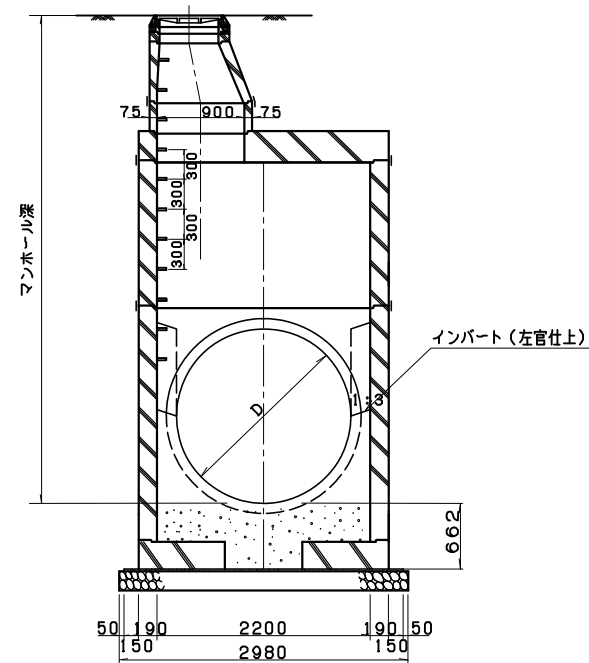
- 注 1) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。  
 2) 接合タイプBとは、金属プレートにより部材間が連結している接合構造 (JSWAS A-11)  
 3) 接合タイプCとは、接合部に金属製ボックスが埋設され、部材間をボルトで連結する接合構造 (JSWAS A-11)

最大適用径  $\phi 1500$

B-B 断面図



A-A 断面図





# 楕円マンホール (接合タイプA)

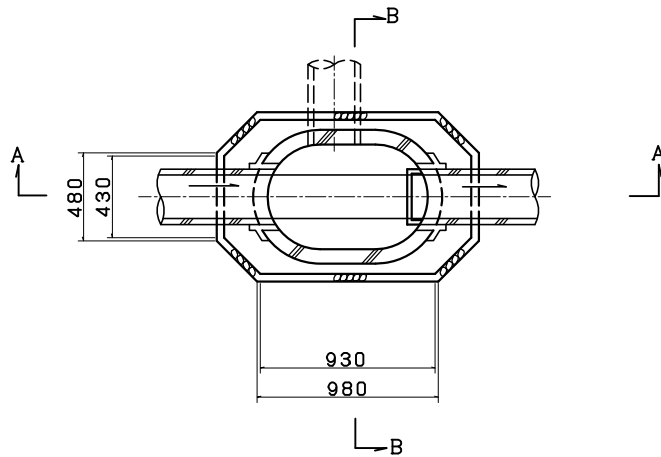
図面記号



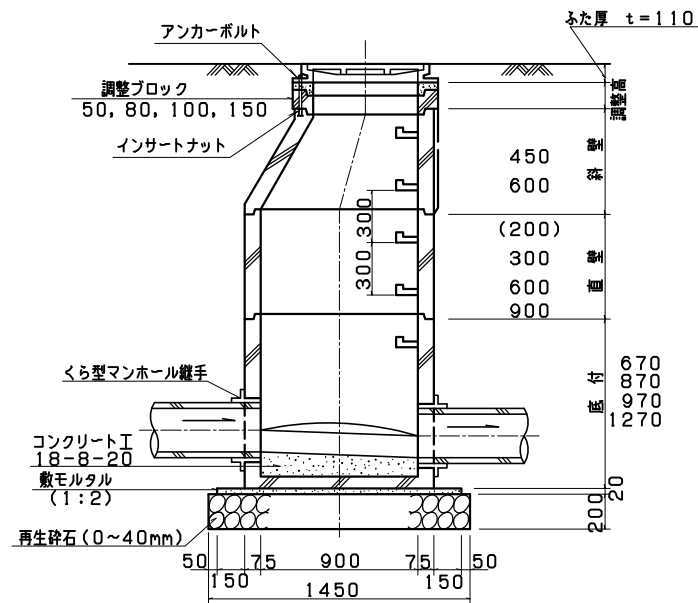
内径900×600mm楕円 (単位mm)

図は、V型の場合を示す。

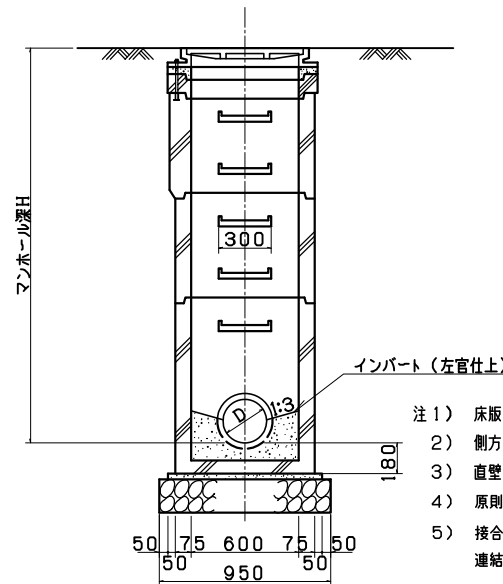
平面図



A-A 断面図

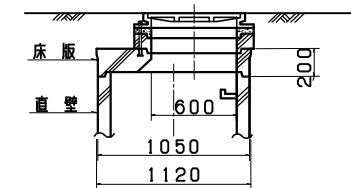


B-B 断面図

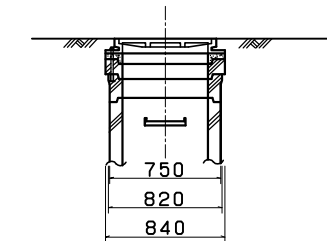


床版ブロック使用の場合

A-A 断面図



B-B 断面図



- 注1) 床版ブロックは、斜壁ブロックが設置できない場合にのみ、使用する事。
- 注2) 側方流入のある場合、できるだけマンホール上流側に取付けるものとする。
- 注3) 直壁ブロックH=20cmは、マンホール新設時には使用しないこと。
- 注4) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 注5) 接合タイプAとは、接合部上面に溝部を有し、樹脂系シール材により連結する接合構造 (JSWAS A-11)

最大適用径  $\phi 350$

# 0号マンホール (接合タイプB, C)

図面  
記号



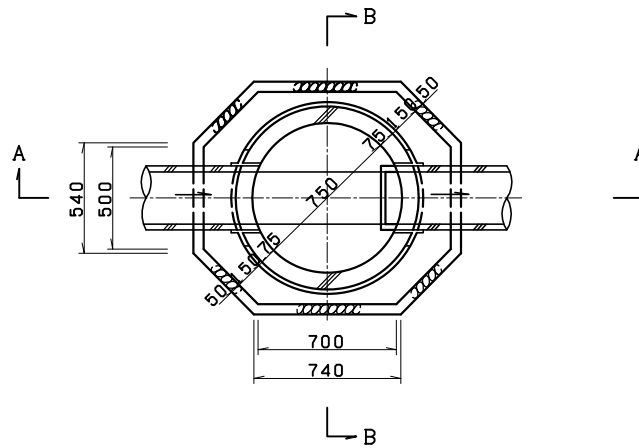
内径750mm円形 (単位mm)

図は、U型の場合を示す。

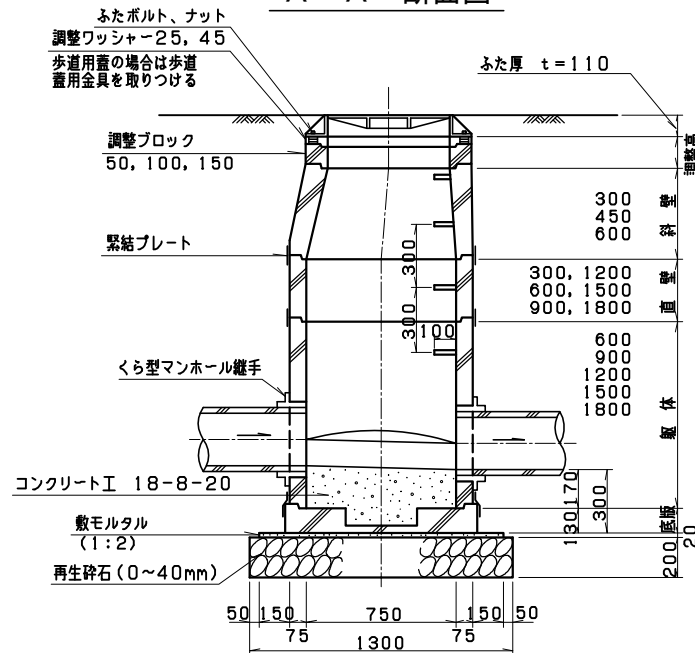
- 注 1) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 2) 接合タイプBとは、金属プレートにより部材間が連結している接合構造 (JSWAS A-11)
- 3) 接合タイプCとは、接合部に金属製ボックスが埋設され、部材間をボルトで連結する接合構造 (JSWAS A-11)

最大適用径 φ400

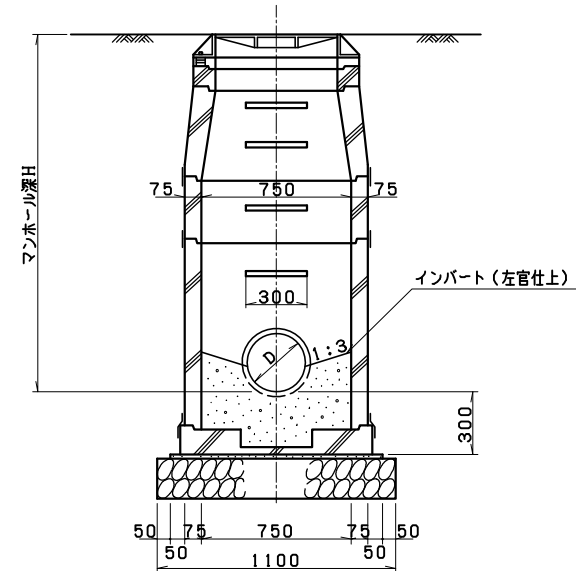
平面図



A-A 断面図



B-B 断面図



# 特殊600mmマンホール（接合タイプA）

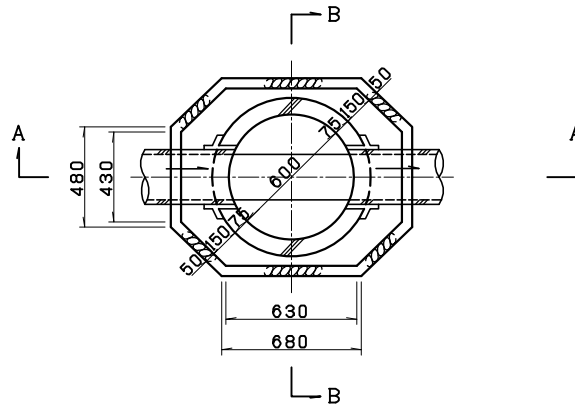
図面  
記号



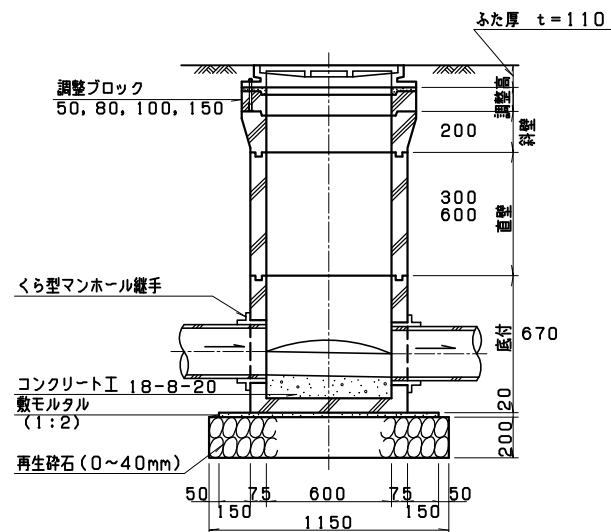
内径600mm円形 (単位mm)

図は、V型の場合を示す。

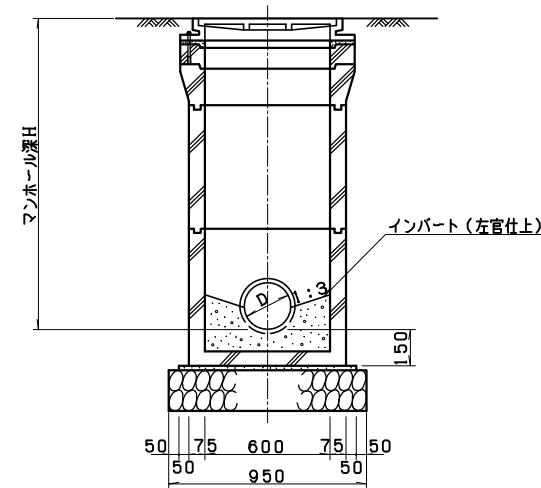
平面図



A-A 断面図



B-B 断面図



- 注 1) マンホール深1.30m未満での使用を標準とする。
- 2) マンホール深1.30m以上となる場合は足掛金物を設置する事。
- 3) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 4) 接合タイプAとは、接合部上面に溝部を有し、樹脂系シール材により連結する接合構造 (JSWAS A-11)
- 5) 調整ブロック (インサート付き) を設置し、蓋を固定する事。

最大適用径  $\phi 350$

# 特殊600mmマンホール（接合タイプB, C）

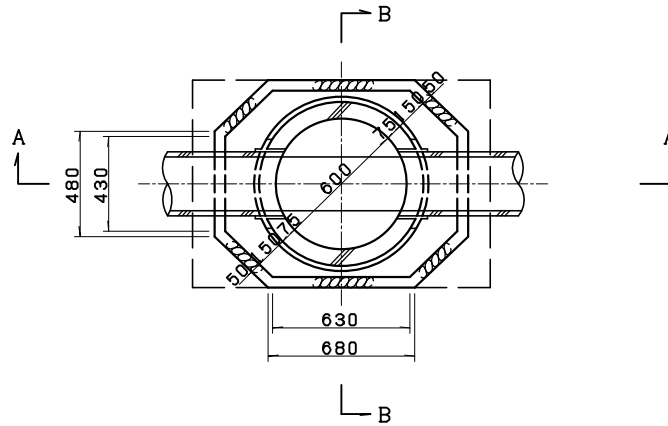
図面  
記号



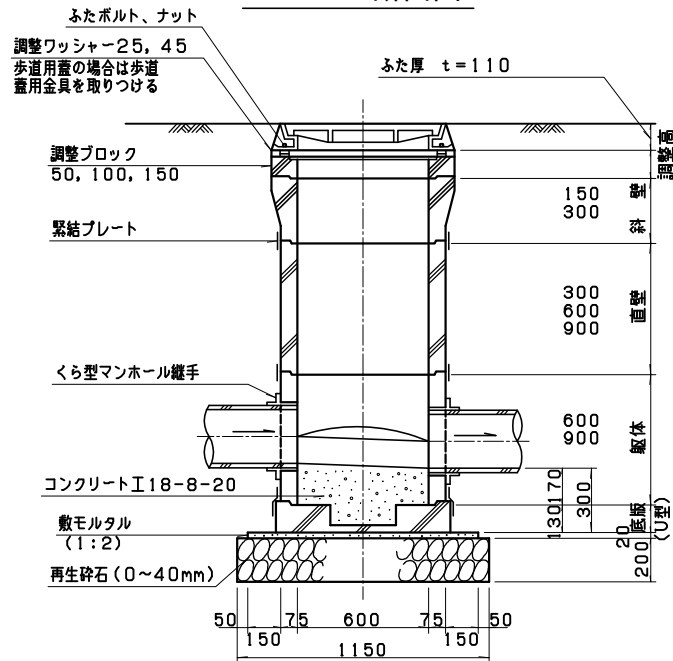
内径600mm円形（単位mm）

図は、U型の場合を示す。

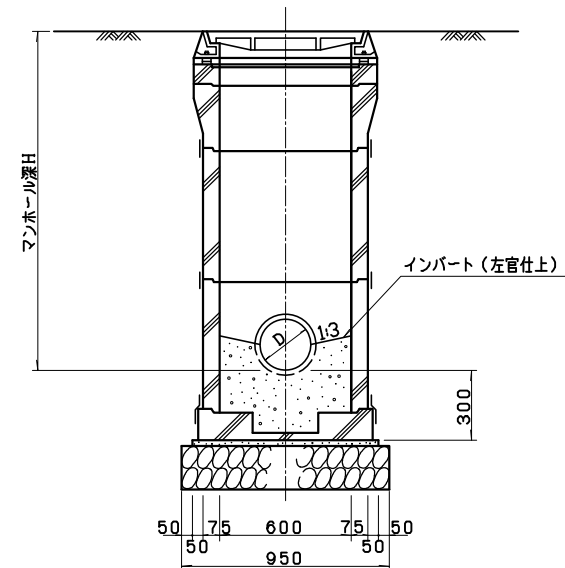
平面図



A-A 断面図



B-B 断面図



- 注 1) マンホール深1.30m未満での使用を標準とする。
- 2) マンホール深1.30m以上となる場合は足掛金物を設置する事。
- 3) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 4) 接合タイプBとは、金属プレートにより部材間が連結している接合構造 (JSWAS A-11)
- 5) 接合タイプCとは、接合部に金属製ボックスが埋設され、部材間をボルトで連結する接合構造 (JSWAS A-11)

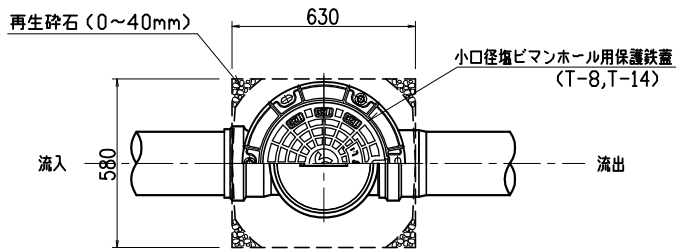
最大適用径  $\phi 300$

立上り部寸法表

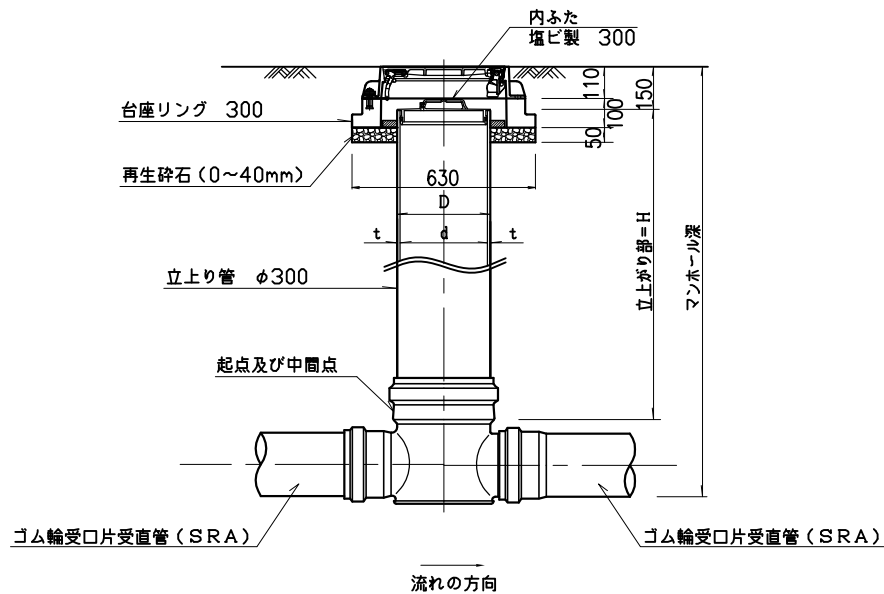
単位：mm

呼び	外径		厚さ		近似内径	高さ	
	D	許容差	t	許容差		d (参考)	H
300×0.6	318	±1.0	9.2	+1.4	298	600	-0
300×0.9						900	
300×1.2						1200	
300×1.5						1500	
300×2.0						2000	
300×2.5						2500	
300×3.0						3000	

平面図



断面図



## 小口径塩ビマンホール (K-9)

図面記号



内径 300 mm 円形 (単位mm)

注1) マンホール深2.00m未満での使用を標準とする。

2) 鉄蓋に輪荷重が上載する箇所は原則として使用しない事。

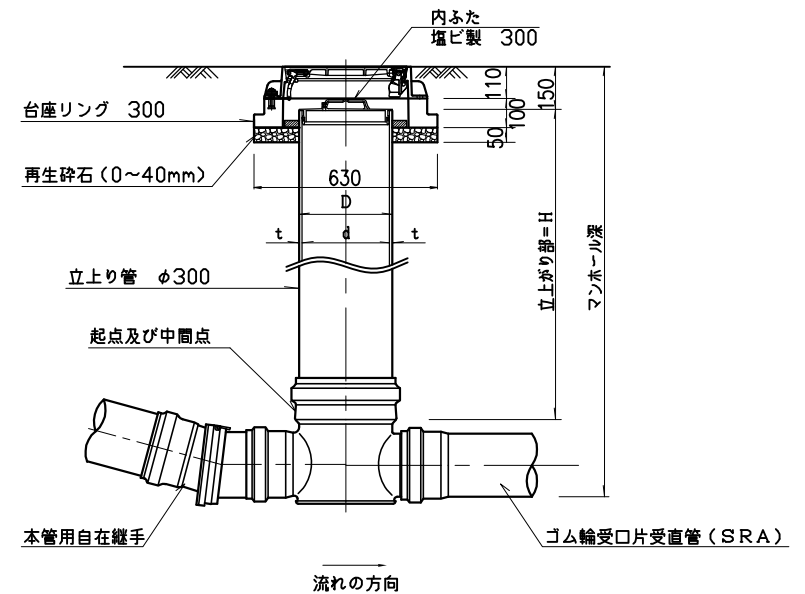
3) 管渠の屈曲点には、屈曲する角度に応じた曲り(15°、30°、45°、60°、75°、90°)を組み合わせて使用する事。

4) 本管用自在継手は、原則として縦断勾配の屈曲点に使用する事。

5) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。

### 本管用自在継手使用の場合

断面図



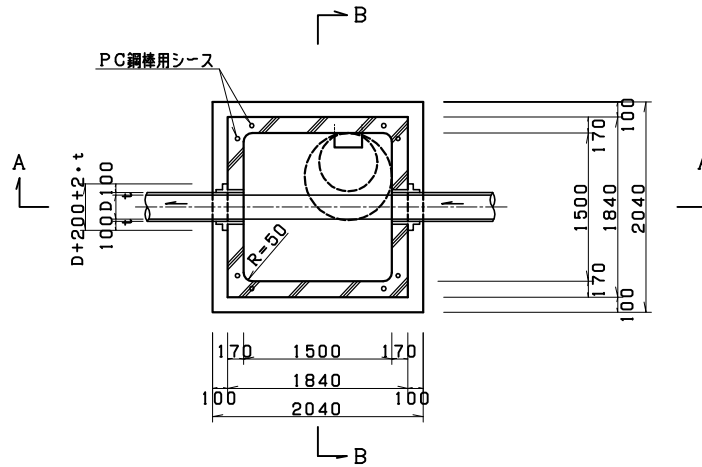
# 特殊A型マンホール

図面  
記号

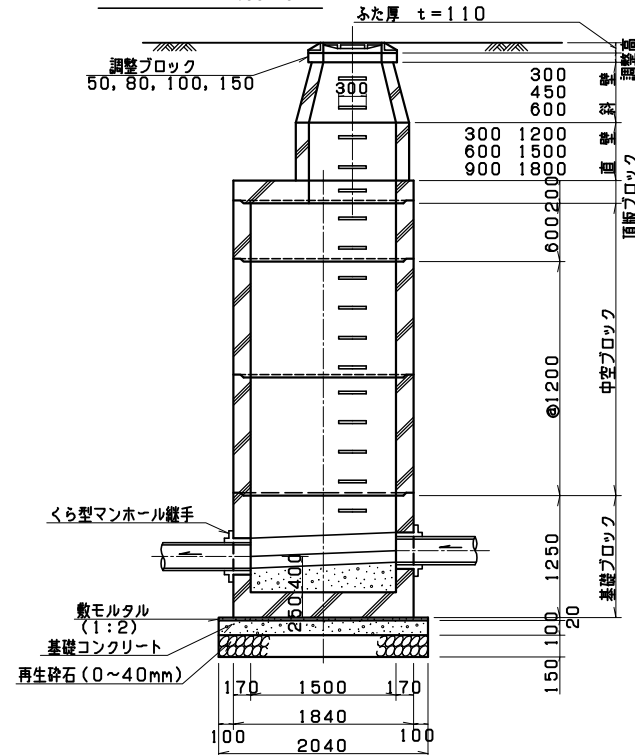


内幅1500×1500mm (単位mm)

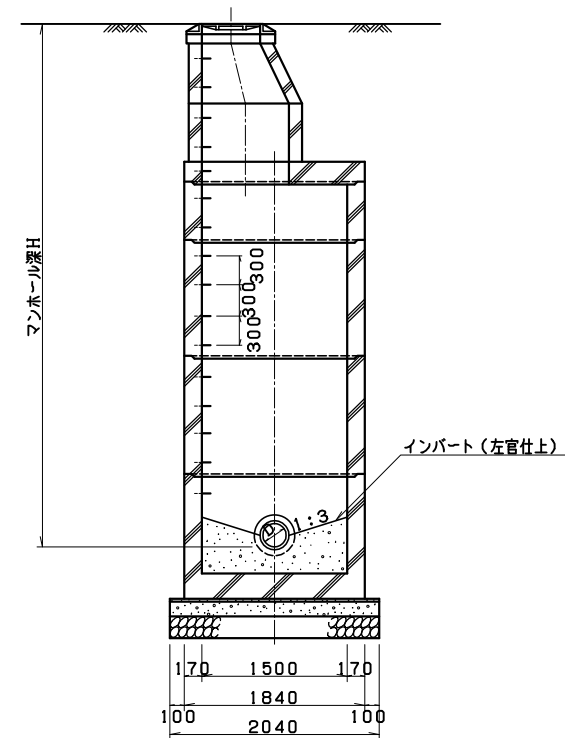
## 平面図



## A-A 断面図



## B-B 断面図



- 注1) マンホール深1.70m以上に適用。
- 2) ブロック内縦方向PC鋼棒には張力を与え、各ブロックの一体化とブロック間継目の止水を計るものとする。
- 3) ブロック連結は、PC鋼より線12.7mmを8本使用し最大緊張力を10tとする。
- 4) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。
- 5) マンホール深5.0m以上の場合は、中床版ブロックを使用する事。

最大適用径 φ1000

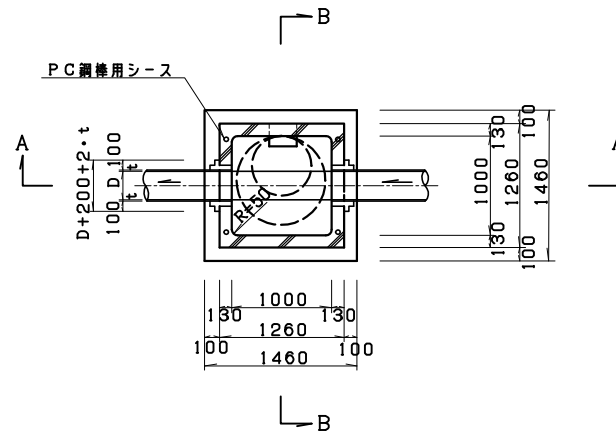
# 特殊B型マンホール

図面  
記号

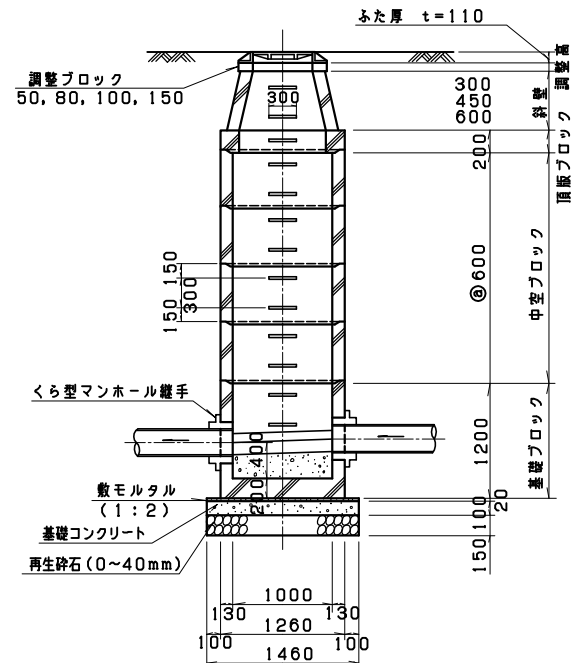


内幅1000×1000mm (単位mm)

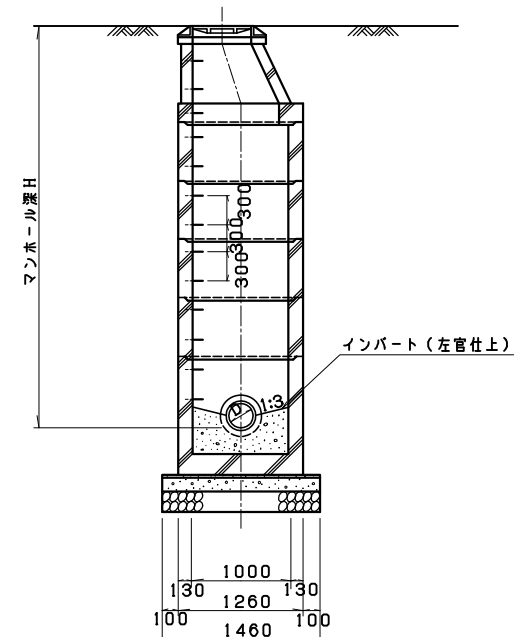
平面図



A-A 断面図



B-B 断面図



- 注1) マンホール深1.70m以上5.00m以下に適用。
- 2) ブロック内縦方向PC鋼棒には張力を与え、各ブロックの一体化とブロック間継目の止水を計るものとする。
- 3) ブロック連結は、PC鋼より線12.7mmを4本使用し、最大張力を8tとする。
- 4) 原則として、流出管の180度の位置に、人孔蓋の蝶番側を設置する事。

最大適用径 φ600

# マンホール副管取付工 (その1)

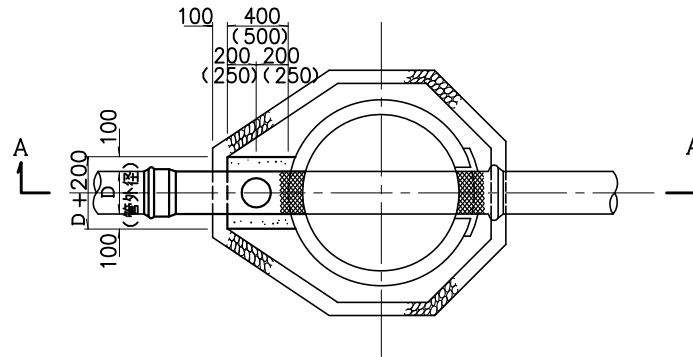
図面  
記号



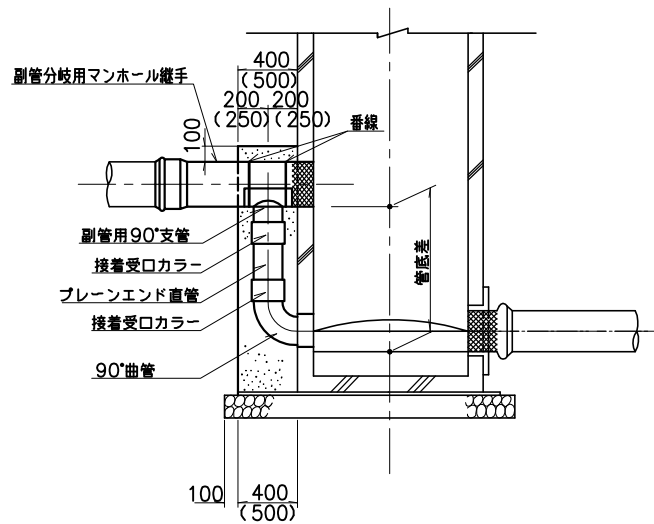
硬質塩化ビニル管 (単位mm)

## 円形管の場合

### 平面図



### A-A断面図



- 注 1) コンクリートは生コンクリート18-8-20を使用する事。  
 2) ( )内値は、副管径φ250,φ300使用時の寸法を表す。  
 3) K<sub>1</sub>、K<sub>5</sub>について原則として、副管径の大きい方を採用するが、現場条件等により、副管径の小さい方の使用も可とする。

本管径 (mm)	外副管径 (mm)	
	K <sub>1</sub>	K <sub>1s</sub>
200	150	150
250	150, 200	150, 200
300	150, 200	150, 200
350	150, 200	150, 200
400	200, 250	200, 250
450	200, 250	200, 250
500	250, 300	250, 300



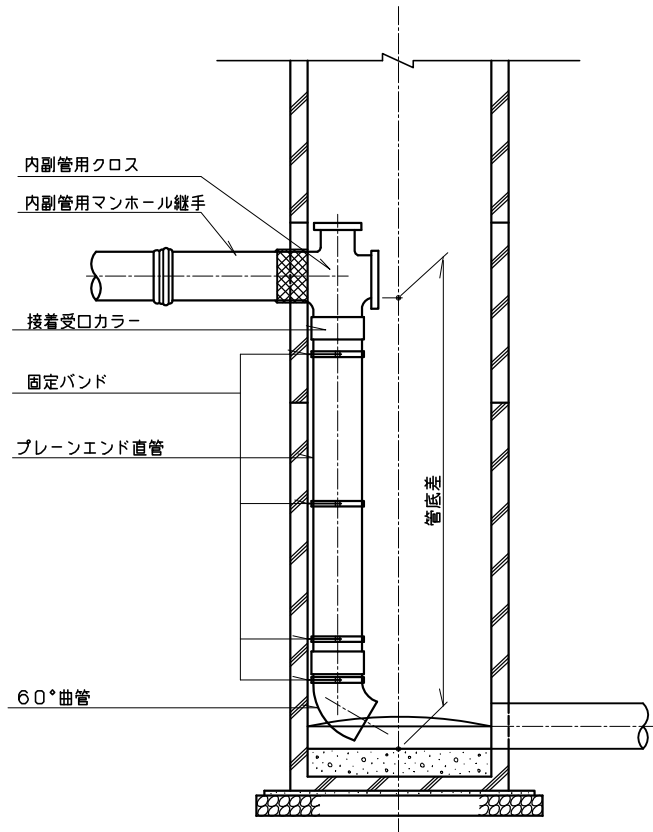
# マンホール副管取付工 (その2)

図面  
記号

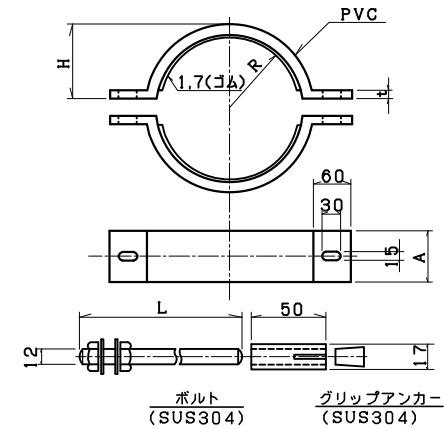


内副管 (単位mm)

## 円形管の場合



## 固定バンド (塩ビ製) 詳細図



ボルト  
(SUS304)

グリップアンカー  
(SUS304)

呼び径	A	H	R	t	L
100	50	58	57	6	150
125	50	72	70	7	200
150	50	84	82		200
200	50	110	108		250
250	50	135	134		320
300	50	160	159		370

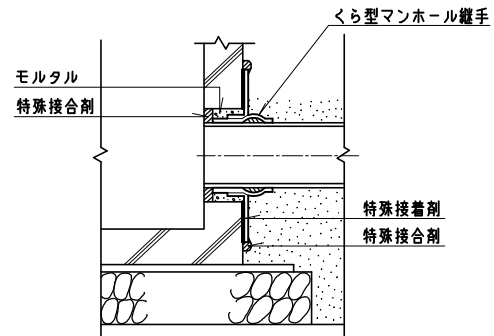
注) 固定バンドの設置間隔は、2m程度とし、また継手部のある場合、その上下にも、設置する事。

本管径 (mm)	内副管径 (mm)	
	K1	K13
200	200	200
250	250	250
300	300	300

# マンホール管口防護工詳細図

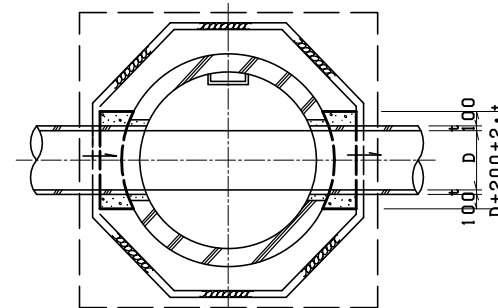
くら型マンホール継手、シーリング、管口防護コンクリート(単位mm)

くら型マンホール継手詳細図 (塩ビ管)

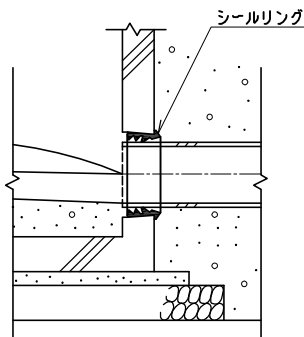


管口防護コンクリート工詳細図

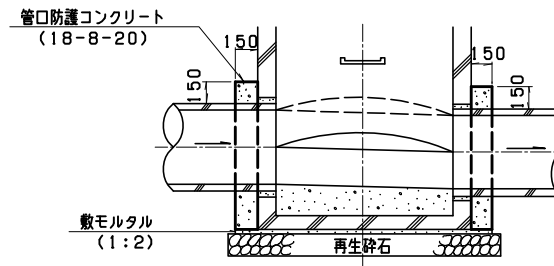
平面図



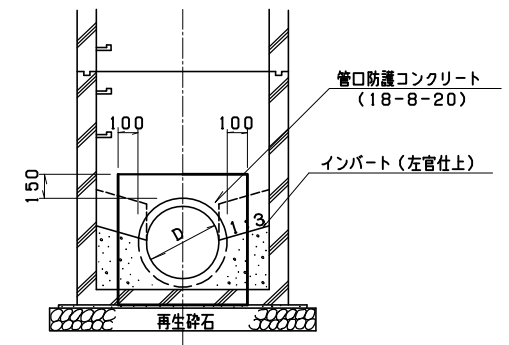
シーリング詳細図



縦断面図



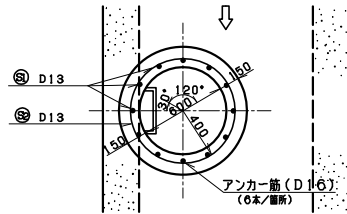
横断面図



# 圧力マンホールふた設置工 耐圧マンホールふた（雨水用）

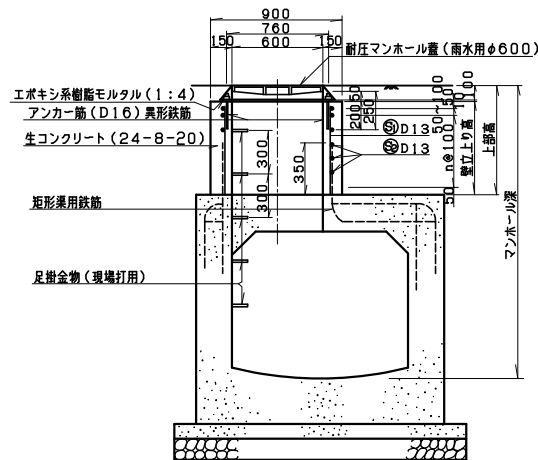
## 現場打矩形渠の場合

平面図



断面図

壁立上り高  $\geq 20$  cm

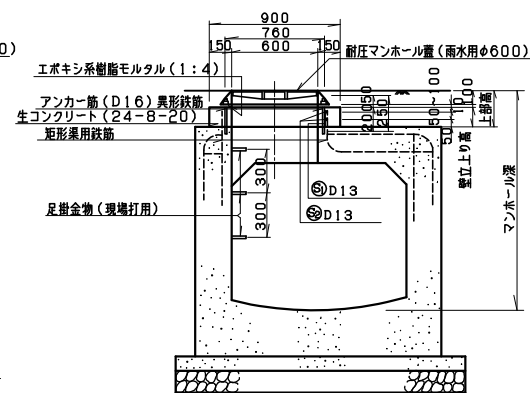


## 上部工鉄筋表

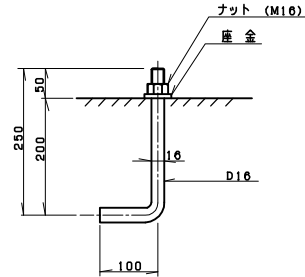
壁立上り鉄筋表		1m当り	
番号	径 mm	ℓ cm	Σℓ cm 本数
S1	D13	100	1.200 12
S2	D13	290	2.900 10
重量 40.795 Kg			

断面図

壁立上り高  $< 20$  cm

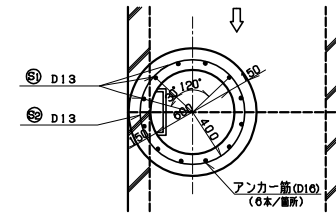


## アンカー筋詳細図



## プレキャスト矩形渠の場合

平面図



断面図

